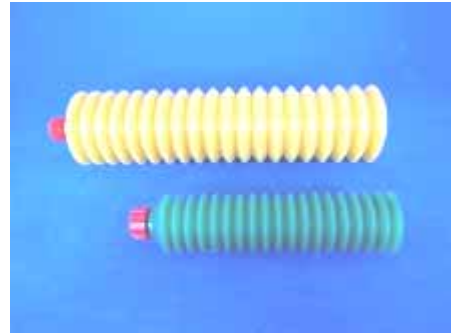


## 「ローヤルゴールド No.2」 - 超万能グリース

1. リチウムコンプレックス(複合)グリース
2. 有機モリブデン&EP剤配合、ロングライフで耐摩耗性
3. 耐熱性・耐荷重性・耐水性に優れ、超万能的に使用OK
4. 使用温度範囲：-20～200 色：淡黄色
5. 荷姿：80g & 400g ジャバラ、16kg 缶



### 「久慈浜物語」3

いつも頭の片隅から離れることの無かった幼い日の残像を、いつか実像として見てみたいと思っていた。

久慈浜に住む従弟に電話をし、目の奥に残る風景を話してその場所への案内を頼んだ。彼は、わたしの意を汲んで快く引き受けしてくれた。

母方のお墓は、実家から程近い小高い丘の上に在った。秋のお彼岸の頃だったのだろうか、母は妹を背負いわたしの手を引いて坂道を上っていった。

丘の上には、たくさんのお墓が立っていて、眼下には太平洋の大海原が青々と広がっていた。大海原は、水平線の果てで大きな円を描いて、白いイワシ雲を浮かべた秋の空と交わっていた。

港から出てきた小さな漁船が、焼玉エンジンのポンポンポンという軽快な音を響かせ、排気筒からは綿帽子のような白い輪を幾重にも吐き出して、碧い海を沖に

### 『ぼんぼん船』

向かって進んで行った。  
(焼玉エンジン：初期のエンジンで、気筒の圧縮室中の赤熱した球形部に燃料油を噴射して爆発させ、ピストンを動かす)

後ろから母の声があった。

『タダヨシ、お墓掃除をする間ミコをみててちょうだい』

母は、背中から妹を地面におろしわたしに預けた。

『崖の方は危ないから、そっちへ行ってはだめですよ』

『うん、大丈夫行かないよ』

妹はまだよちよち歩きだったので、二人でお墓の周りをぐるぐる回って遊んだ。丘の周りでは、

ススキの白い穂が風に揺らめいていた。それを何本か抜き取って妹に手渡した。

『お兄ちゃん、ありがとつ』と、言ったような気がした。

母は掃除が終わったのか、私たちを呼び寄せお墓の前に立たせた。成長した子供を見せたかったのだろうか、母の横顔は夕日に映えてきれいだった。

## あとなぎ



先日、金沢に行った折少し足を伸ばして日本最古の天守閣がある丸岡城に行ってきました。「一筆啓上火の用心、お仙泣かすな馬肥やせ」で有名ですが、階段があまりに急でロープが吊るされていたのにはびっくりでした。

茶店で食べたマンゴーのスイーツも美味しかったし、町営の温泉もよかったです。「孤高の丸岡城に立つ、わが企業小規模なれど意気高し」